

2020  
秀作

## 第53回「おかねの作文」コンクール

# お金のカタチ

岡山県・岡山県立岡山大安寺中等教育学校 3年 野島 麻央

「ICOCAで払ったら？」

塾に行ったときご飯を買おうとしたけれど、おこづかいをもらい忘れて買えない私が、困ってとりあえず母に電話したらそう言われた。「ICOCA」で買うことなど頭になかった私はなるほどと思い、サンドウィッチと飲み物を無事購入することができた。

最近お金のカタチが変わっている。電子マネーというものだ。先ほど出てきた「ICOCA」というのはJR西日本の交通系ICカードで、私は学校にバスで通学することもあるため、いつも持ち歩き、いくらかお金が入っている。電子マネーについて父に話を聞いてみると以前はカードをあまり使わず、現金主義者だった父も最近の支払いは、「PayPay」ばかりで、財布からお金を出すことが極端に減ったと言っていた。今ではコンビニでも、ランチでも、税金の支払いまで電子マネーだ。

そもそもお金が生まれる前は「物々交換」で食糧や生活に必要な物をお互いに交換していた。しかし、相手が必要な物を持っていなかったり、交換する物の価値が釣り合わなかったりという問題があった。そこで人々は「物品交換」を行うようになったのである。「布・塩・貝・砂金」など比較的価値が下がりにくい物品と交換するというものだ。特に中国では貝（貝貨）を用いた物品交換が一般的となった。今でも「財」「貯」「貨」などお金に関する漢字に「貝」が多く使われているのはこのためだといわれている<sup>注)</sup>。

我が家では、お手伝いをすると貝ではなく、「ポイント」をもらうことができる。例えばゴミ捨てで10ポイント、おふろ掃除で15ポイント、テストで100点を取ると100ポイントなどだ。このポイントもたまればおこづかいに変わるので、いわゆる「お金」だ。

物から貝、貝から金貨や紙幣へとカタチを変えていくお金だが、21世紀では、

とうとうかたちがなくなり、見えなくなってしまった。これはすごい変化だ。そして、利用者もどんどん増えてきている。では、なぜ電子マネーを使う人が多くなったのだろうか。私が考える理由は三つある。

一つ目は現金を持ち歩かなくてよいということだ。毎日重たい小銭の入ったお財布を持っておかなくてもよい。また現金に直接触れないため、衛生的で現在問題となっている新型コロナウイルス対策にもピッタリなのだ。

二つ目はスピーディーな決済ができることだ。電子マネーを使えば、カードやスマホを専用の端末にかざすだけで、ものの数秒で支払いが完了する。現金でお金を払うときと比べお金を出し、お釣りをもらう時間が省かれ格段に早く決済をすることができる。

三つ目は決済額に応じた電子マネーポイントが貯まる<sup>た</sup>ということだ。電子マネーはポイント還元を受けられる分、現金よりもお得に買い物をすることができる。例えば「WAON」は支払い200円ごとに「WAONポイント」が1ポイント貯まる。貯まった1ポイントは1円分として「WAON」の支払いで使うことができるのだ。

しかし、これらのように電子マネーはメリットばかりではない。目の前にお金があれば高い物を買うとき勇気がいるし、本当に必要なのかと考えながらお金を払うことができるが、電子マネーでは「チャリーン」や「ペイペイ」などのメロディとともに気軽に買ってしまう。さらに、今、お金がなくても後で払うかたちで買い物までできてしまう。そんな時代だからこそ、今私が無限に買い物ができる電子マネーを持ってしまったら、我慢できずたくさんいらぬ物、余分な物まで買ってしまうだろう。

私自身には電子マネーはまだ早い。私自身が成長し、心をコントロールできる力が身につけばと思う日々だ。私が電子マネーを使う頃には、お金は次の変化を見せているかもしれない。

(注) ときわ総合サービス「お金の起源を教えます！過去から現在までのお金の歴史」

URL <https://www.tokiwa-ss.co.jp/journal/knowledge-of-money/money-origin.html>

閲覧日 2020年8月10日